都道府県別賞一等

一円ももらわなくて、大満足

和歌山県　和歌山県立桐蔭中学校　三学年

川本　真緒

「保険」ってなんなのだろう。そう思い辞書で調べてみた。そこには、「火災・死亡・病気等の偶然の事故による損害を補償するため、多数者が一定の資金（＝保険料）を出し合い、実際に事故があった時その者に一定金額（＝保険金）を与える制度。」と、「比喩的に、損害を償う保証。確実な保証。」という二つの意味が書かれていた。

私は、この二つ目の意味を読んだとき、思わず苦笑いしてしまった。なぜなら、私自身もしょっちゅう日常の中でこの「保険」を使っているからだ。テストの前に友達に向かってテストの点数が悪いかもしれないと言い訳をしておく。そうすれば、本当に点数が悪かったときでも、自分の心のショックという〝損害〟を少しでも減らすことができる。私たちは暮らしの中で、無意識にこうした予防線の保険を張って、自分が傷つかないように守っているのだ。

では、大人が入る本物の「生命保険」はどうなのだろう。同じように、何か悪いことが起きたときのための〝言い訳〟なのだろうか。そう疑問に思い、その日の夕食の席で両親に「うちって、生命保険に入っているの？」と尋ねてみた。母は、「もちろん入っているよ。でもね、ありがたいことに、今まで一度もその保険を使ったことがないのよ。」と言った。

その言葉を聞いたとき、私は一瞬、『使わないのなら、毎月払っているお金がもったいないのではないか』と思ってしまった。テストの保険なら、点数が悪かったときにすぐ言い訳として役に立つ。それなのに、使わなければ手元に残らない本物の保険のお金は、損をしているのではないか、と頭をよぎったのだ。しかし、それは大きな間違いだったとすぐに気づいた。

保険にお世話になったことがないということは、我が家がこれまで、大きな病気やケガをせず、誰も命を落とすことなく、無事に暮らしてこられたという動かぬ証拠だ。毎日元気に学校へ行ける。そんな、普段は当たり前すぎて意識すらしない日常の風景が続いてきたこと。これこそが何よりも最高の幸せだ。

もし生命保険という仕組みがなければ、私たちは常に『明日病気になったらどうしよう』という不安を抱えて生きることになり、自分の夢にのびのびと挑戦することなどできないはずだ。生命保険の本当の価値は、お金を受け取ることだけではない。使わずに済んでいる日々の平穏への感謝と、それによって得られる『万が一の時も守られている』という心の安心こそが、辞書にあった

もう一つの意味――私たちの暮らしを後ろからそっと支える「確実な保証」の正体なのだと、私は強く実感した。

さらに、保険の仕組みは「多数者が資金を出し合う」という、目に見えない助け合いのバトンで成り立っている。我が家が保険を使わずに幸せに暮らしている間、私たちが支払ったお金は、今まさにどこかで病気と闘っている誰かの暮らしを支えている。そう考えると、保険にお世話にならないことは、自分たちの幸せであると同時に、誰かの幸せに貢献できているということなのだ。

これからの未来、偶然の事故や病気を完全にゼロにすることはできない。だからこそ、お互いに支え合う仕組みが必要になる。私は将来、社会に出たら、今度は自分が誰かの安心を支える「助け合いの輪」の一員になりたい。そして、これからも〝保険にお世話にならない幸せ〟を噛み締めながら、一日一日を大切に生きていこうと思う。もちろん、次のテストには、言い訳の保険をかけずに済むぐらい、しっかり勉強して、完璧な状態で挑むつもりだ。